

Syllabus 2024

－ 教育課程と年間授業計画 －

1 学年



広島市立舟入高等学校

目 次 (1 学年)

教育課程 (1 学年)	1
【国語】	
現代の国語	2
言語文化	4
【地理歴史】	
歴史総合	6
【数学】	
数学 I ・数学 A ・数学 II	8
【理科】	
化学基礎	10
生物基礎 (普通科普通)	12
【保健体育】	
体育	14
保健	16
【芸術】	
音楽 I	18
美術 I	20
書道 I	22
【外国語】	
英語コミュニケーション I	24
論理・表現 I	30
【家庭】	
家庭基礎	34
【情報】	
情報 I	37
【英語】	
英語総合 I (国際コミュニケーションコース)	40
【国際理解】	
第二外国語 (フランス語) (国際コミュニケーションコース)	44
第二外国語 (中国語) (国際コミュニケーションコース)	47
第二外国語 (韓国・朝鮮語) (国際コミュニケーションコース)	50
【総合的な探究の時間】	
ABLE Time	53

令和6年度入学生教育課程

科目名についた丸数字は週あたりの授業時間数です。

枠内に2つ以上の科目名がある場合は科目を選択することになります。

表の横軸は週あたりの授業時間数を表しています。

【普通科 普通】

		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33
第1学年		現代の国語②	言語文化③	歴史総合②	数学Ⅰ②	数学A②	数学Ⅱ①	化学基礎②	生物基礎②	体育③	保健①	芸術Ⅰ②	英語コミュニケーションⅠ③	論理・表現Ⅰ②	家庭基礎②	情報Ⅰ②																		
	文科型	論理国語②	古典探究③	公共②	地理総合②	日本史探究③	世界史探究③	数学Ⅱ③	数学B②	数学C①	地学基礎②	体育②	保健①	文学探究② 世界史探究② 芸術Ⅱ②	英語コミュニケーションⅡ④	論理・表現Ⅱ②																		
第2学年	理科型	論理国語②	古典探究②	公共②	地理総合②	数学Ⅱ②	数学B②	数学C②	物理基礎②	物理③	生物③	化学③	体育②	保健①	英語コミュニケーションⅡ④	論理・表現Ⅱ②																		
	文科型	論理国語②	古典探究③	日本史研究④ 世界史研究④ 地理探究④ 政治経済④ ※上記より2科目				数学Ⅲ④	数学演習A④	数学演習B② 芸術Ⅲ② 芸術研究②	生物演習②	化学演習② 地学演習②	体育②	英語コミュニケーションⅢ④	論理・表現Ⅲ②																			
第3学年	理科型	論理国語②	古典探究②	日本史探究④ 世界史探究④ 地理探究④ 政治経済④	数学Ⅲ④	数学演習1④	数学演習2③	物理④	生物④	化学④	体育②	英語コミュニケーションⅢ④	論理・表現Ⅲ②																					
	文科型	論理国語②	古典探究③	日本史研究④ 世界史研究④ 地理探究④ 政治経済④ ※上記より2科目				数学Ⅲ④	数学演習A④	数学演習B② 芸術Ⅲ② 芸術研究②	生物演習②	化学演習② 地学演習②	体育②	英語コミュニケーションⅢ④	論理・表現Ⅲ②																			

1年の芸術Ⅰは「音楽Ⅰ」「美術Ⅰ」「書道Ⅰ」から1つ選択します。(国際コミュニケーションコースも同様)

「自立活動」については、別途定めるものとする。

【普通科 国際コミュニケーションコース】

		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33
第1学年		現代の国語②	言語文化③	歴史総合②	数学Ⅰ②	数学A②	数学Ⅱ①	化学基礎②	体育③	保健①	芸術Ⅰ②	英語コミュニケーションⅠ③	論理・表現Ⅰ②	英語総合Ⅰ①	第二外国語①	家庭基礎②	情報Ⅰ②																	
	第2学年	論理国語②	古典探究③	公共②	地理総合②	日本史探究③ 世界史探究③	数学Ⅱ③	数学B②	数学C①	生物基礎②	地学基礎②	体育②	保健①	英語コミュニケーションⅡ③	英語総合Ⅱ②	第二外国語①																		
第3学年	α	論理国語②	古典探究③	日本史研究④ 世界史研究④ 地理探究④ 政治経済④ ※上記より2科目				数学演習A④	生物演習②	化学演習② 地学演習②	体育②	英語コミュニケーションⅢ④	英語総合Ⅲ②	第二外国語②																				
	β	論理国語②	古典探究③	日本史研究④ 世界史研究④ 地理探究④ 政治経済④ ※上記より2科目				数学演習C②	Public speaking②	英語演習② 芸術研究②	翻訳演習②	体育②	英語コミュニケーションⅢ④	英語総合Ⅲ②	第二外国語②																			

第2外国語は「フランス語」「中国語」「韓国・朝鮮語」から1つ選択します。(3年間同一言語を学習する)

「自立活動」については、別途定めるものとする。

年間指導計画表(シラバス)

科目名	現代の国語	単位数	2単位
		学年等	1年生

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	<p>言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次の通り育成することを目指す。</p> <p>(1)実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2)論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。</p> <p>(3)言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。</p>
使用教科書 副教材等	<p>「高等学校 現代の国語」(第一学習社)</p> <p>新訂総合国語便覧(第一学習社)</p> <p>問題集 セレクト漢字検定5級-2級 確認と演習 三訂新版(桐原書店)</p> <p>問題集 新訂版 正しく読み、解くための力をつける現代文 ステップ2(数研出版)</p> <p>問題集 進研WINSTEP現代文1 新課程版(ランズ)</p> <p>問題集 評論要約マスターノート 基礎編(数研出版)</p>

2 評価の観点等

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	言葉の特徴や使い方、話や文章に含まれている情報の扱い方などの実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けている。	「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる。	言葉を通じて積極的に他者や社会に関わったり、思いや考えを広げたり深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、進んで読書に親しみ、言葉を効果的に使おうとしている。
評価点	400点	400点	400点

3 評価の計画

学期	単元	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
前期	1 評論 「生きもの」として生きる	考查・課題テスト 小テスト	考查・課題テスト ワークシート	週課題 振り返りシート
	2 小説 「羅生門」			
前期	3 評論 「水の東西」	200点	200点	200点
	4 小説 「夢十夜」			
前期	評価点	200点	200点	200点
後期	5 評論 「ものごとば」	考查・課題テスト 小テスト	考查・課題テスト ワークシート	週課題 振り返りシート
	6 評論 「フェアな競争」			
後期	7 小説 「城の崎にて」	200点	200点	200点
	8 評論 「不均等な時間」			
後期	評価点	200点	200点	200点

4 指導の計画

学期	月	単元及び学習内容	時数	
前期	4	1 評論 「生きもの」として生きる	20	
	5	文章の内容を叙述に即して的確に読み取り、評論文を読解する基礎的な力を養う。		
	6	2 小説 「羅生門」 文章に描かれた人物、情景、心情などを表現に即して読み味わう。		
			第1回考査	
	7	◆----- 3 評論 「水の東西」	15	
	8	構成や展開を確かめ、内容や表現の仕方について評価し、筆者の意図をとらえるなど、本格的な評論文を読み基本的な読み方を習得する。		
	9	4 小説 「夢十夜」 夢という非日常的な体験が描かれた作品を読むことで、想像世界の広がりを楽しむ、フィクションのおもしろさを味わう。		
			第2回考査	
	後期	10	5 評論 「ものごとば」 構成や展開の工夫、表現の特色をとらえ、筆者の考えを理解した上で、自己の表現に役立てる。	15
11		6 評論 「フェアな競争」 筆者が自説を述べるための論の進め方を捉え、現代社会に対する理解を深める。		
12		◆----- 7 小説		
1		「城の崎にて」 登場人物の心情や行動、背景などを通して、短編小説のおもしろさを読み味わう。	20	
2		8 評論 「不均等な時間」 二項対立の概念を用いた評論を読み、論旨を的確に把握する。		
3		◆----- 第4回考査		

5 その他

○文章を読むことについては、小中学校と変わりはないが、文章の内容が難しく、専門的になってくる。現代文の力をつけるには特に継続的な努力が必要である。問題練習や読書などに努め、継続的に取り組むこと。

年間指導計画表(シラバス)

科目名	言語文化	単位数	3 単位
		学年等	1 年生

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	<p>言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次の通り育成することを目指す。</p> <p>(1)生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。</p> <p>(2)論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。</p> <p>(3)言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。</p>
使用教科書 副教材等	<p>「高等学校 言語文化」(第一学習社) 新訂総合国語便覧(第一学習社) 解釈のための必携古典文法 三訂新版(啓隆社) 古文単語330 四訂版(いっずな書店) 基礎から解釈へ漢文必携 五訂版(桐原書店) 問題集 四訂版 力をつける古文 ステップ1(数研出版) 問題集 四訂版 力をつける漢文 ステップ1(数研出版) 問題集 進研WINSTEP古典1 新課程版(ラーズ) 問題集 新版 古典文法習得のための用言活用ノート(数研出版) 問題集 新版 古典文法習得のための助動詞マスターノート(数研出版) 問題集 五訂版 基礎から解釈へ漢文必携チェックノート基本編(桐原書店)</p>

2 評価の観点等

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	伝統的な言語文化及び言葉の特徴やきまりなどの理解を深め、生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けている。	「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる。	言葉を通じて積極的に他者や社会に関わったり、思いや考えを広げたり深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、進んで読書に親しみ、言葉を効果的に使おうとしている。
評価点	400点	400点	400点

3 評価の計画

学期	単元	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
前期	1 説話 「児のそら寝」(『宇治拾遺物語』) 2 物語 「なよ竹のかぐや姫」(『竹取物語』) 3 漢文入門 「訓読に親しむ(一)(二)(三)」 4 故事成語 「漁父之利」「狐借虎威」「蛇足」(『戦国策』) 5 物語を楽しむ「芥川」「筒井筒」(『伊勢物語』)	考查・課題テスト 小テスト	考查・課題テスト ワークシート	週課題 振り返りシート
	評価点	200点	200点	200点
後期	6 随筆 「九月二十日のころ」「丹波に出雲といふ所あり」(『徒然草』) 7 史伝 「先從隗始」「完璧」(『十八史略』) 8 日記 「門出」「帰京」(『土佐日記』) 9 漢詩 「江雪」「静夜思」「月夜」「送元二使安西」 10 歌の世界 短歌「その子二十」(与謝野晶子他) 俳句「こころの帆」(正岡子規他)和歌「万葉集」「古今和歌集」「新古今和歌集」 11 中国の思想 「論語」	考查・課題テスト 小テスト	考查・課題テスト ワークシート	週課題 振り返りシート
	評価点	200点	200点	200点

4 指導の計画

学期	月	単元及び学習内容	時数
前期	4	1 説話「児のそら寝」(『宇治拾遺物語』)、物語「なよ竹のかぐや姫」(『竹取物語』) 古文に対する興味や親しみを持つ。古語辞典を活用して口語訳する。	30
	5	2 漢文入門「訓読に親しむ(一)(二)(三)」 漢文に対する興味や親しみを持つ。	
	6	3 故事成語「漁父之利」「狐借虎威」(『戦国策』) 漢文訓読の調子を習熟するよう繰り返し音読し、漢語の意味や句形をふまえて現代語訳ができるようになる。本格的な漢文学習の入門として、故事成語を読む。	
	7	◆-----第1回考査	20
	8	4 故事成語「蛇足」(『戦国策』) 漢文訓読の調子を習熟するよう繰り返し音読し、漢語の意味や句形をふまえて現代語訳ができるようになる。本格的な漢文学習の入門として、故事成語を読む。	
9	5 物語を楽しむ「芥川」「筒井筒」(『伊勢物語』) 歌物語の特徴や文学史的な位置づけを押さえながら、登場人物の心情を中心に内容を読み味わう。 ◆-----第2回考査		
後期	10	6 随筆「九月二十日のころ」「丹波に出雲といふ所あり」(『徒然草』) 随筆作品の特徴や文学史的な意義を知り、作者のものの見方や考え方を理解する。	25
	11	7 史伝「先從隗始」(『十八史略』) 歴史的背景の概略をつかみ、史話の面白さを味わう。	
	12	8 日記「門出」(『土佐日記』) 仮名日記文学としての文学史的意義を理解し、作者の文章表現の工夫や人間観察の鋭さに気づく。 ◆-----第3回考査	
	1	9 日記「帰京」(『土佐日記』) 仮名日記文学としての文学史的意義を理解し、作者の文章表現の工夫や人間観察の鋭さに気づく。	30
	2	10 漢詩「江雪」「静夜思」「月夜」「送元二使安西」 漢詩の形式と表現について理解するとともに、作品世界について鑑賞を深める。	
3	11 歌の世界 短歌「その子二十」(与謝野晶子他)俳句「こころの帆」(正岡子規他) 和歌「万葉集」「古今和歌集」「新古今和歌集」 日本独特の表現ジャンルである短歌と俳句について、表現形式や表現技法、鑑賞方法を学ぶ。三大和歌集の歌の特徴の違いを比較しながら、歌に詠まれた世界について鑑賞を深める。 12 中国の思想「論語」 諸子百家に触れつつ、論語を手掛かりとして儒家思想について学ぶ ◆-----第4回考査		

5 その他

○古典作品には、現代とは異なる文化や考え方の中で、人々がどのように生き、社会を見つめてきたのかということが現れている。古典を学ぶ醍醐味は、古典作品を読むことで、そのような古典の時代の人間観や世界観を味わうとともに、現代を生きる自分自身や日本人の生き方について深く考えることにある。また、現代と異なることばの仕組みや語彙などを知ること、面白みの一つである。より深まりのある学びのために予習を心がけ、積極的な態度で授業に臨むこと。

年間指導計画表(シラバス)

科目名	歴史総合	単位数	2単位
		学年等	1年生

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	<p>社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野にたち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次の通り育成することを目指す。</p> <p>(1)近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界とそれの中の日本を広く相互的な視野から捉え理解するとともに、諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付ける。</p> <p>(2)近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらをもとに議論したりする力を養う。</p> <p>(3)よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重する姿勢を深める。</p>
使用教科書 副教材等	<p>『現代の歴史総合 みる・読みとく・考える』 山川出版社</p> <p>『問いからはじまる歴史総合』 とうほう 『歴史総合問題集』 山川出版社</p>

2 評価の観点等

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界と日本を相互的な視野から捉え理解している。また、諸資料の情報を適切に調べまとめる技能を身に付けている。	近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色、また歴史に見られる課題などを、多面的・多角的に考察し、それらを効果的に説明したり、議論したりしている。	近現代の歴史の変化に関わる諸事象と、それらに関連する現代的諸課題について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとしている。
評価点	400点	400点	400点

3 評価の計画

学期	単元	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
前期	歴史の扉 ①歴史と私たち②歴史と資料 [第I部 近代化と私たち] 第1章 結びつく世界と日本の開国 第2章 国民国家と明治維新 [第II部 大衆化と私たち] 第3章 総力戦と社会運動	・定期考査等	・定期考査等 ・ワークシートの記述分析	・学習課題等 ・単元シート記述分析
	評価点	200点	200点	200点
後期	第4章 経済危機と第二次世界大戦 [第III部 グローバル化と私たち] 第5章 冷戦と世界経済 第6章 世界秩序の変容と日本	・定期考査等	定期考査等 ・ワークシートの記述分析	・学習課題等 ・単元シート記述分析
	評価点	200点	200点	200点

4 指導の計画

学期	月	単元及び学習内容	時数	
前期	4	歴史の扉 ①歴史と私たち ②歴史の特質と資料 〔第Ⅰ部 近代化と私たち〕 第1章 結びつく世界と日本の開国 ・近代以前の東アジア・世界と日本のつながり	3	
	5	・産業革命と開国 第2章 国民国家と明治維新 ・市民革命、国民国家とナショナリズム運	15	
	6	・明治維新と日本の産業革命 ・帝国主義と東アジアの国際秩序の変容		
	7	◆-----第1回考査 〔第Ⅱ部 国際秩序の変化や大衆化と私たち〕 第3章 総力戦と社会運動		
	8	・第一次世界大戦とロシア革命 ・国際協調体制とアジアのナショナリズム	12	
	9	・大衆の政治参加と大衆文化		
	後期	10	第4章 経済危機と第二次世界大戦 ・世界恐慌とファシズム・共産主義 ・第二次世界大戦	13
		11	・国際連合と国際経済体制 ・占領と戦後改革 ・冷戦のはじまりと東アジア諸国の動向	
		12	◆-----第3回考査 〔第Ⅲ部 グローバル化と私たち〕 第5章 冷戦と世界経済 ・冷戦下の地域紛争と脱植民地化 ・東西両陣営の動向と1960年代の社会 ・軍拡競争から緊張緩和へ	
1		・日本の高度経済成長とアジアの中の日本 第6章 世界秩序の変容と日本	13	
2		・アジア諸地域の経済発展 ・市場開放と経済の自由化 ・情報技術革命とグローバリゼーション		
3		・地域統合の拡大と変容、地域紛争と国際社会 ・現代と私たち		
			◆-----第4回考査	14

5 その他

○「歴史＝暗記すること」という認識を脱しましょう。個別の知識は現代の諸問題について考えるための足掛かりです。考えること、表現することが大事です。共有された問いや自ら生み出した問いを大切に、積極的に議論してください。

○歴史の学習によって皆さんの頭の中に最も残したいものは、特定の人物の名前や事象が生じた年代などではありません。歴史上形成された「概念」です。「概念」とは、それを説明する人によって言葉が異なったり、辞書によってさえ表現が異なったりするものの、歴史を学んだ者同士なら共有できる不思議な知的産物です。ゆえに、定義を暗記しても意味がなく、たとえつたない言葉でも、あなた自身の言葉で表現することが大切です。「近代化」「市民革命」「国民国家」「ナショナリズム」「大衆化」「グローバリゼーション」など、複雑な概念を多角的な視点から考察し、自分の言葉で表現できるようになりましょう。またそれらの概念と現代のつながりを見出す姿勢を持ってください。単元シートではそこを評価します。

年間指導計画表(シラバス)

科目名	数学Ⅰ・数学A・数学Ⅱ	単位数	2+2+1 単位
		学年等	1年生

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	<p>数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。</p> <p>(3) 数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。</p>
使用教科書 副教材等	<p>教科書:数学Ⅰ・数学A・数学Ⅱ(数研出版)</p> <p>副教材:サクシード 数学Ⅰ+A、サクシード 数学Ⅱ+B+C、チャート式数学Ⅰ+A、チャート式数学Ⅱ+B+C(ベクトル)(数研出版)</p>

2 評価の観点等

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。	数や式を多面的にみたり適切に変形する力、図形について論理的に考察し簡潔・明瞭・的確に表現する力、事象を的確に表現してその特徴を考察する力、適切な分析を行い、問題解決やその過程と結果を考察し判断する力を身に付けている。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を身に付けている。
評価点	400点	400点	400点

3 評価の計画

学期	単元	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
前期	数学Ⅰ 第1章 数と式	定期考査	定期考査	パフォーマンス課題 学習課題
	第2章 集合と命題	単元テスト	単元テスト	
	第3章 2次関数			
後期	第4章 図形と計量	定期考査	定期考査	パフォーマンス課題 学習課題
	第5章 データの分析	単元テスト	単元テスト	
	評価点	200点	200点	200点
後期	数学A 第1章 場合の数と確率	定期考査	定期考査	パフォーマンス課題 学習課題
	第2章 図形の性質	単元テスト	単元テスト	
	第3章 数学と人間の活動	定期考査	定期考査	パフォーマンス課題 学習課題
数学Ⅱ 第1章 式と証明	単元テスト	単元テスト		
第2章 複素数と方程式				
評価点	200点	200点	200点	

4 指導の計画

学期	月	単元及び学習内容	時数	
前期	4	数学Ⅰ 第1章 数と式 第1節 式の計算 第2節 実数	15	
	5	第3節 1次不等式 第2章 集合と命題 第3章 2次関数	6	
	6	第1節 2次関数とグラフ 第2節 2次方程式と2次不等式 パフォーマンス課題(2次関数)	23	
	7	←-----第1回考査----- 第4章 図形と計量	20	
	8	第1節 三角比		
	9	第2節 三角形への応用 第5章 データの分析 (数学A 第1章 場合の数と確率) (第1節 場合の数 ※学習は進めますが考査の範囲としては第3回になります。)	6	
		←-----第2回考査-----		
	後期	9	数学A 第1章 場合の数と確率 第1節 場合の数	35
		10	第2節 確率 第2章 図形の性質 第1節 平面図形	15
11		第2節 空間図形		
12		←-----第3回考査----- 第3章 数学と人間の活動	20	
1		数学Ⅱ 第1章 式と証明 第1節 式と計算	19	
2		第2節 等式と不等式の証明 第2章 複素数と方程式	16	
3		←-----第4回考査-----		

5 その他

- 授業では、学んだ知識を利用して思考し、ペアワーク、グループワークを通して表現していきます。
- 単元ごとに確認テストを行います。また、ICT機器などを利用してパフォーマンス課題にも取り組みます。
- 授業を通して物事を多面的に捉え適切に変形し、論理的に考察し的確に表現してその特徴を考察、分析したうえで問題解決やその過程と結果から判断する力を養います。

年間指導計画表(シラバス)

科目名	化学基礎	単位数	2 単位
		学年等	1 年生

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	<p>物質とその変化に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、物質とその変化を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。</p> <p>(2) 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。</p> <p>(3) 物質とその変化に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。</p>
使用教科書 副教材等	<p>教科書:第一学習社「化学基礎」</p> <p>副教材:第一学習社「セミナー化学基礎」 数研出版「フォトサイエンス化学図録」</p>

2 評価の観点等

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。	物質とその変化から問題をみいだし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究している。	物質とその変化に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。
評価点	400 点	400 点	400 点

3 評価の計画

学期	単元	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
前期	[序章 化学と人間生活] [第 I 章 物質の構成] 第 1 節 物質の成分と構成元素 第 2 節 原子の構造と元素の周期表 第 3 節 物質と化学結合 [第 II 章 物質の変化] 第 1 節 物質と化学反応式	・定期考査 ・小テスト等	・定期考査等 ・提出物等	・提出物等
	評価点	200 点	200 点	200 点
後期	第 2 節 酸と塩基の反応 第 3 節 酸化還元反応	・定期考査 ・課題テスト等	・定期考査等 ・提出物等	・提出物等
	評価点	200 点	200 点	200 点

4 指導の計画

学期	月	単元及び学習内容	時数
前期	4	〔序章 化学と人間生活〕	18
	5	〔第Ⅰ章 物質の構成〕	
	6	第1節 物質の成分と構成元素 探究活動1 ① 物質の成分 ② 物質の構成元素 ③ 状態変化と熱運動	
		第2節 原子の構造と元素の周期表 探究活動2 ① 原子の構造 ② イオン ③ 元素の相互関係	
		第3節 物質と化学結合 ① イオン結合 ② 共有結合 ③ 金属結合 ④ 結晶の比較	
		第1回考査	
	7	〔第Ⅱ章 物質の変化〕	17
	8	第1節 物質と化学反応式	
	9	① 原子量・分子量と式量 ② 物質質量 探究活動3 ③ 溶解と濃度 ④ 化学変化と化学反応式 ⑤ 化学反応の量的関係 探究活動4 ⑥ 化学変化における諸法則	
		第2回考査	
後期	10	第2節 酸と塩基の反応	18
	11	① 酸と塩基 ② 水素イオン濃度 ③ 中和と塩	
	12	④ 中和滴定 探究活動5 探究活動6	
		第3回考査	
	1	第3節 酸化還元反応	
	2	① 酸化と還元 ② 酸化剤と還元剤の反応	
3	③ 酸化還元の量的関係 探究活動7 ④ 金属のイオン化傾向 探究活動8 ⑤ 電池 ⑥ 金属の製錬		
		第4回考査	

5 その他

○単に知識として理解するだけでなく、学習内容と身近な自然現象を関連させて物事をとらえ、化学の有用性や学ぶ意義を感じてほしい。

○考査間に実験や観察による探究活動を行います。探究するテーマについて、これまで学習した内容から仮説を立て、実験結果の考察をグループで行うことを通して、科学的に探究する力を育成します。

年間指導計画表(シラバス)

科目名	生物基礎	単位数	2単位
		学年等	1年生 普通

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	<p>生物や生物現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、生物や生物現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 日常生活や社会との関連を図りながら、生物や生物現象について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。</p> <p>(3) 生物や生物現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養う。</p>
使用教科書 副教材等	<p>教科書：「高等学校 生物基礎」(数研出版)</p> <p>資料集：「新課程 フォトサイエンス 生物図録」(数研出版)</p> <p>問題集：「新課程 リードα 生物基礎 完成ノート」(数研出版)</p> <p>副教材：「新課程 リード light ノート 生物基礎」(数研出版)</p>

2 評価の観点等

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	日常生活や社会との関連を図りながら、生物や生物現象について基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために観察、実験などに関する操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。	生物や生物現象から問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究している。	生物や生物現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとしていたり、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与しようとしている。
評価点	400点	400点	400点

3 評価の計画

学期	単元	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
前期	第1章 生物の特徴 第1節 生物の多様性と共通性 第2節 エネルギーと代謝 第3節 呼吸と光合成 第2章 遺伝子とそのはたらき 第1節 遺伝情報とDNA 第2節 遺伝情報の複製と分配 第3節 遺伝情報の発現	・定期考査 ・授業中の行動観察 ・実験ワークシートの記述分析	・定期考査 ・授業の行動観察 ・実験ワークシートの記述分析	・学習課題等 ・実験ワークシートの記述分析
	評価点	200点	200点	200点

後 期	第3章 ヒトの体内環境の維持 第1節 体内での情報伝達と調節 第2節 体内環境の維持のしくみ 第3節 免疫のはたらき 第4章 生物の多様性と生態系 第1節 植生と遷移 第2節 植生の分布とバイオーム 第3節 生態系と生物の多様性 第4節 生態系のバランスと保全	・定期考査 ・授業中の行動観察 ・実験ワークシートの記述分析	・定期考査 ・授業の行動観察 ・実験ワークシートの記述分析	・学習課題等 ・実験ワークシートの記述分析
	評価点	200点	200点	200点

4 指導の計画

学期	月	単元及び学習内容	時数	
前 期	4	第1章 生物の特徴 第1節 生物の多様性と共通性 予備学習 顕微鏡観察の基本操作 観察1 細胞の観察	20	
	5	第2節 エネルギーと代謝		
	6	第3節 呼吸と光合成 実験1 カタラーゼのはたらき 第1回考査		
	◆-----			
	期	7	第2章 遺伝子とのはたらき 第1節 遺伝情報とDNA 実験2 DNAの抽出	15
		8	第2節 遺伝情報の複製と分配 観察2 体細胞分裂の観察	
		9	第3節 遺伝情報の発現 第2回考査	
		◆-----		
	後 期	10	第3章 ヒトの体内環境の維持 第1節 体内での情報伝達と調節 実験3 運動によるからだの状態の変化	20
11		第2節 体内環境の維持のしくみ 第3節 免疫のはたらき 第3回考査		
◆-----				
期		12	第4章 生物の多様性と生態系 第1節 植生と遷移	15
		1	第2節 植生の分布とバイオーム 実験4 身近な照葉樹とか緑樹の葉の比較	
		2	第3節 生態系と生物の多様性	
		3	第4節 生態系のバランスと保全 第4回考査	
◆-----				

5 その他

- 授業では、他者と協働しながら、生命現象に関して思考することを通して、学びを深めていきます。自分の考えを積極的に表現することを心がけましょう。
- 授業では、たくさんの用語が登場します。それぞれの用語の意味を正確に理解していきましょう。用語が正確に理解できたら、用語どうしのつながりを意識しましょう。生命現象というのは多くの要素がつながってできています。このつながりを意識して学習を進めていくと、「思考力・判断力・表現力」の育成が図れます。

年間指導計画表(シラバス)

科目名	体育	単位数	3 単位
		学年等	1 年生

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	<p>体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。</p> <p>(3) 運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養う。</p>
使用教科書 副教材等	本校体育実技記録ノート アクティブスポーツ 2024(大修館書店)

2 評価の観点等

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解しているとともに、それらの技能を身に付けている。	生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。	生涯にわたって継続して運動に親しむために、運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするとともに、健康・安全を確保している。
評価点	200 点	200 点	200 点

3 評価の計画

学期	単元	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
前期	○体づくり運動 ○選択Ⅰ(器械運動・陸上競技・ダンス) ○選択Ⅱ(球技・武道) ○体育理論	・スキルテスト ・種目テスト(筆記)	・レポート ・学習プリント ・授業観察	・授業観察 ・学習プリント
	評価点	100 点	100 点	100 点
後期	○選択Ⅲ(球技・武道) ○陸上競技(長距離走) ○体育理論	・スキルテスト ・種目テスト(筆記)	・レポート ・学習プリント ・授業観察	・授業観察 ・学習プリント
	評価点	100 点	100 点	100 点

4 指導の計画

学期	月	単元及び学習内容	時数	
前期	4	○体づくり運動	6	
	5	○選択Ⅰ ・器械運動(マット運動) ・陸上競技(ハードル走・高跳び・幅跳び) ・ダンス(創作ダンス)	21	
		6		◆-----第1回考査
	7	○選択Ⅱ ・球技:ネット型(卓球・バドミントン・テニス・ソフトテニス・バレーボール) ・球技:ベースボール型(ソフトボール) ・武道(柔道)	18	
		8		○体づくり運動
	9	○体育理論 1単元 スポーツの発祥と発展 1. スポーツの始まりと変遷 2. 文化としてのスポーツ 3. オリンピックとパラリンピックの意義	3	
		◆-----第2回考査		
	後期	10	○選択Ⅲ ・球技:ゴール型(バスケットボール・ハンドボール・アルティメット・サッカー)	24
		11	・武道(柔道)	
12		◆-----第3回考査		
1		○体育理論 1単元 スポーツの発祥と発展 4. スポーツが経済に及ぼす影響 5. スポーツの高潔さとドーピング 6. スポーツと環境	3	
		2		○陸上競技(長距離走)
		3		◆-----第4回考査

その他

○ 選択(Ⅰ～Ⅲ)授業においては、人数によって開講できない場合もある。

年間指導計画表(シラバス)

科目名	保健	単位数	1 単位
		学年等	1 年生

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	<p>保健の見方・考え方を働かせ、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、生涯を通じて人々が自らの健康や環境を適切に管理し、改善していくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1)個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2)健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝える力を養う。</p> <p>(3)生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。</p>
使用教科書 副教材等	現代高等保健体育（大修館書店） 現代高等保健体育ノート(大修館書店)

2 評価の観点等

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身に付けている。	健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断しているとともに、目的や状況に応じて他者に伝えている。	生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営むための学習に主体的に取り組もうとしている。
評価点	100 点	100 点	100 点

3 評価の計画

学期	単元	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
前期	[1単元]現代社会と健康 1. 健康の考え方と成り立ち 2. 私たちの健康のすがた 3. 生活習慣病の予防と回復 4. がんの原因と予防 5. がんの治療と回復 6. 運動と健康 7. 食事と健康 8. 休養・睡眠と健康 9. 喫煙と健康 10. 飲酒と健康 11. 薬物乱用と健康 12. 精神疾患の特徴 13. 精神疾患の予防 14. 精神疾患からの回復	・考査	・考査 ・学習プリント	・授業観察 ・学習プリント・ノート
	評価点	50 点	50 点	50 点

後期	15. 現代の感染症 16. 感染症の予防 17. 性感染症・エイズとその予防 18. 健康に関する意思決定・行動選択 19. 健康に関する環境づくり 〔2単元〕安全な社会生活 1. 事故の現状と発生要因 2. 安全な社会の形成 3. 交通における安全 4. 応急手当の意義とその基本 5. 日常的な応急手当 6. 心肺蘇生法	・考査	・考査 ・学習プリント	・授業観察 ・学習プリント・ノート
	評価点	50点	50点	50点

4 指導の計画

学期	月	単元及び学習内容	時数
前期	4	〔1単元〕 現代社会と健康	9
	5	1. 健康の考え方と成り立ち	
	6	2. 私たちの健康のすがた 3. 生活習慣病の予防と回復	
	7	4. がんの原因と予防 5. がんの治療と回復	
	8	6. 運動と健康	
	9	7. 食事と健康	
	10	8. 休養と健康	
	11	9. 喫煙と健康	
	12	10. 飲酒と健康	
	1	11. 薬物乱用と健康	
	2	12. 精神疾患の特徴	
	3	第1回考査	
後期	10	13. 精神疾患の予防 14. 精神疾患からの回復	9
	11	15. 現代の感染症 16. 感染症の予防 17. 性感染症・エイズとその予防 18. 健康に関する意思決定・行動選択 19. 健康に関する環境づくり	
	12	〔2単元〕 安全な社会生活	
	1	1. 事故の現状と発生要因	
	2	2. 安全な社会の形成	
	3	3. 交通における安全	
	4	4. 応急手当の意義とその基本	
	5	5. 日常的な応急手当	
	6	6. 心肺蘇生法	
	7	第3回考査	
	8	第4回考査	
	9	8	

5 その他

--

年間指導計画表(シラバス)

科目名	音楽 I	単位数	2 単位
		学年等	1 年生

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	<p>音楽の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 自己のイメージをもって音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴くことができるようにする。</p> <p>(3) 主体的・協働的に音楽の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養う。</p>
使用教科書 副教材等	<p>高校生の音楽 I (教育芸術社)</p> <p>題材に応じてワークシートを配付</p>

2 評価の観点等

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	<p>曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けている。</p>	<p>音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きを感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように表すかについて表現意図をもったり、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴いたりしている。</p>	<p>主体的・協働的に音楽の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていこうとしている。</p>
評価点	200 点	200 点	200 点

3 評価の計画

学期	単元	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
前期	[歌唱] 斉唱、独唱、合唱	実技テスト ワークシート記述	実技テスト ワークシート記述	行動観察 ワークシート記述
	[器楽] ヴァイオリン [鑑賞] ドイツリート	発表 実技テスト ワークシート記述	発表 実技テスト ワークシート記述	行動観察 ワークシート記述
	評価点	100 点	100 点	100 点
後期	[創作] 作曲	発表 ワークシート記述 作品提出	ワークシート記述 作品提出	行動観察 ワークシート記述
	[鑑賞] 音楽史、管弦楽	ワークシート記述	発表 ワークシート記述	行動観察 ワークシート記述
	評価点	100 点	100 点	100 点

4 指導の計画

学期	月	単元及び学習内容	時数
前期	4	〔歌唱〕 校歌(斉唱)、魔法みたいに、O`sole mio、Tonight	8
	5	・バランスのよい姿勢、呼吸の仕方、声の響かせ方を理解し、曲のイメージをもち、曲想と歌詞との関わりや旋律の特徴、言葉の抑揚を理解して、表現を創意工夫して歌う。	8
	6	野ばら(合唱) ・ドイツ語の発音やその強弱によるリズムや旋律との関わりを理解するとともに、曲にふさわしい表現で歌う。	8
	7	◆----- 第1回考査	6
	8	〔鑑賞〕 菩提樹 ・ドイツリート仕組みを理解し、伴奏部が何を表現しているのか歌詞に描かれた内容を照らし合わせながら読み取る。	6
	9	〔器楽〕 ヴァイオリン きらきら星、カノン、喜びの歌 ・楽器の構造、奏法を学び、旋律の動きや余韻の変化などを理解し、楽器の特徴を生かして演奏する。	6
		◆----- 第2回考査	
	10	〔創作〕 iPad を用いての作曲 ・コード進行について理解し、伴奏を自分のイメージに合わせて作曲する。	8
	11	・循環進行に合わせて旋律を作り、音素材を活用して自分のイメージしている曲想にし、発表する。	6
後期	12	◆----- 〔鑑賞〕 交響詩 魔法使いの弟子	6
	1	・作品に影響を与えたゲーテの詩「魔法使いの弟子」を読み、情景を浮かべながら曲を鑑賞し、登場する人や物、物語のシーンがどのように音楽で表現されているかについて、考察する。	4
	2	ウエストサイドストーリー ・作品のテーマとなっているアメリカの社会問題を理解し、登場人物の心情を感じ取る。	4
	3	◆----- 第4回考査	

5 その他

- 1日に2時間連続で授業があります。
- 定期考査は実施しませんが、単元ごとに実技テスト、発表を行います。
- 進学で音楽が必要な人は必ず申し出て下さい。
- 創作の授業では必ず iPad が必要になります。他のタブレットではアプリケーションが使用できません。

年間指導計画表(シラバス)

科目名	美術 I	単位数	2 単位
		学年等	1年生

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	<p>美術の幅広い創造活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を重ね、生活や社会の中の美術や美術文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて表現方法を創意工夫し、創造的に表すことができるようにする。</p> <p>(2) 造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し創造的に発想し構想を練ったり、価値意識をもって美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。</p> <p>(3) 主体的に美術の幅広い創造活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、美術文化に親しみ、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。</p>
使用教科書 副教材等	美術1(光村図書)

2 評価の観点等

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて表現方法を創意工夫し、創造的に表すことができる。	造形的なよさや美しさ表現の意図と創意工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し創造的に発想し構想を練ったり、価値意識をもって美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができる。	主体的に美術の幅広い創造活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、美術文化に親しみ、心豊かな生活や社会を創造していこうとしている。
評価点	200点	200点	200点

3 評価の計画

学期	単元	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
前期	明度段階 素描 構成 鑑賞	課題作品 ワークシート 授業中の活動観察	課題作品 ワークシート 授業中の活動観察	課題作品 ワークシート 授業中の活動観察
	評価点	100点	100点	100点
後期	デザイン 立体表現 鑑賞 絵画表現	課題作品 ワークシート 授業中の活動観察	課題作品 ワークシート 授業中の活動観察	課題作品 ワークシート 授業中の活動観察
	評価点	100点	100点	100点

4 指導の計画

学期	月	単元及び学習内容	時数
前期	4	美術 I についてオリエンテーション	1 2
	5	鉛筆明度表現 鉛筆を使って、スケッチブックに明度段階を表す。	3
		鉛筆素描 形体を観察し、スケッチブックに鉛筆で形体や明暗をつけて表す。	6
	6	◆-----第1回考查	
		鉛筆素描 鉛筆でスケッチブックに画面構成を行なう。	6
	7	色彩の理解 教科書・ワークシートによって色彩を理解する。 スケッチブックに色彩演習を行なう。	4
	8	デザイン(平面から立体へ) コンセプトを考える ワークシート アイデアスケッチ スケッチブックにアイデアの具体的な形を描く。	10
		図面作成 アイデアスケッチをもとに、平面図、側面図、正面図などを描く。	
	9		
	立体制作 図面をもとに立体で形成する。	3	
	◆-----第2回考查		
後期	10	立体制作 図面をもとに立体を完成する。	8
	11	鑑賞 作品を鑑賞し、レポートにまとめる。	2
	12	絵画制作 作品のコンセプトと構想を練る ワークシート スケッチブック	6
		◆-----第3回考查	
		作品制作 イラストボードに描く。	10
	1		2
	2	作品制作 作品の完成	4
	3	鑑賞 完成作品を鑑賞し、レポートにまとめる。	2
		まとめ	1
	◆-----第4回考查		

5 その他

○表現活動に様々な用具を使用しますが、基本的に各自の教材費で購入します。
 ○表現と鑑賞を通して、個人またはグループによる美術的探求活動を行い、造形的な理解を深めていきます。
 ○定期考查は実施せず、授業で行う課題の技能・知識及び思考・判断・表現、主体的な学習態度により総合的に評価します。

科目名	書道 I	単位数	2単位
		学年等	1年生

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	<p>書道の幅広い活動を通して、書に関する見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の文字や書、書の伝統と文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 書の表現の方法や形式、多様性などについて幅広く理解するとともに、書写能力の向上を図り、書の伝統に基づき、効果的に表現するための基礎的な技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書的美を味わい捉えたりすることができるようにする。</p> <p>(3) 主体的に書の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。</p>
使用教科書 副教材等	『書 I』 光村図書

2 評価の観点等

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	<ul style="list-style-type: none"> 書の表現の方法や形式、書表現の多様性について幅広く理解している。 書写能力を向上させるとともに、書の伝統に基づき、作品を効果的に表現するための基礎的な技能を身に付け、表している。 	<p>書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品の意味や価値を考え、書的美を味わい捉えたりしている。</p>	<p>主体的に書の表現及び鑑賞の幅広い活動に取り組もうとしている。</p>
評価点	200点	200点	200点

3 評価の計画

学期	単元	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
前期	漢字の書 ・文字の造形を学ぶ(楷書・行書) ・創作する	作品 ワークシートの記述	作品 ワークシートの記述	行動観察 ワークシートの記述
	篆刻	作品 ワークシートの記述	作品 ワークシートの記述	行動観察 ワークシートの記述
	評価点	100点	100点	100点
後期	仮名の書 ・文字の造形を学ぶ (筆使い・平仮名・変体仮名・連綿・古筆臨書) ・創作する	作品 ワークシートの記述 テスト	作品 ワークシートの記述	行動観察 ワークシートの記述
	漢字仮名交じりの書 ・創作する 生活の中の書	作品 ワークシートの記述 硬筆ノート	作品 ワークシートの記述 発表	行動観察 ワークシートの記述
	評価点	100点	100点	100点

4 指導の計画

学期	月	単元及び学習内容	時数	
前期	4	・書道で学習すること(書道の三分野とその学習方法について) ・書写から書道へ(書写と書道の違いについて)	2	
	5	【1】漢字の書 ・漢字の変遷とさまざまな書体…書体の変遷と特徴について確認する	4	
		(1)文字の造形を学ぶ<楷書>…古典の歴史的背景・筆者について知る 鑑賞・臨書を通して、古典の特徴を捉え、用筆・運筆の技法を習得する	6	
		(2)文字の造形を学ぶ<行書>	6	
	6	(3)創作する…創作意図に基づき、古典を生かした作品制作を行い、鑑賞する	8	
			第1回考査	
	7	◆-----		
	8	(4)篆刻…印の用途を理解する		
	9	制作の手順を理解し、白文印を制作する	8	
	10	○生活の中の書①(硬筆-楷書)		
		第2回考査	2	
後期	10	【2】仮名の書		
	11	・仮名の成立と種類 (1)仮名の筆使い…仮名の基本的な用筆・運筆を理解・習得する (2)平仮名…平仮名の字源を知り、字形を捉える (3)変体仮名 (4)連綿…和歌を臨書する(高野切第三種より) (5)創作する…古筆を生かした作品制作を行い、鑑賞する	8	
			8	
			第3回考査	
	12	◆-----		
	1	【3】漢字仮名交じりの書 (1)心に響く言葉を書く…共通の題材で創作の手順について学ぶ	4	
	2	(2)創作する—好きな言葉を書こう— …創作意図に基づき、古典を生かした作品制作を行い、鑑賞する 用具・用材を選択する 古典や古筆を学習した知識・技能を生かし、作品の構想を練る	10	
3	○生活の中の書②(硬筆-行書)	4		
		第4回考査		

5 その他

- ただ手本を見て書くだけでなく、単元毎の知識・技能を得たり生かしたりしながら、創作作品の制作を行います。主体的に粘り強く自己表現していきましょう。
- 手書き文字の良さを理解し、くらしの中にある書や文字を意識しましょう。また、日常生活で使用する文字も日頃からていねいに書く習慣をつけましょう。
- 書道実技が必要な大学進学を考えている人は早めに相談に来てください。

年間指導計画表(シラバス)

科目名	英語コミュニケーションⅠ	単位数	3単位
		学年等	1年生

1 学習の到達目標等

学習の 到達目標	<p>英語学習の特質を踏まえ、以下に示す、聞くこと、読むこと、話すこと[やりとり]、話すこと[発表]、書くことの五つの領域別に設定する目標の実現を目指した指導を通して、外国語科の定める「知識・技能」「思考・判断・表現」を一体的に育成するとともに、その過程を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を育成する。</p> <p>(1) 聞くこと</p> <p>ア 日常的话题について、話される速さや、使用される語句や文、情報量などにおいて、多くの支援を活用すれば、必要な情報を聞き取り、話し手の意図を把握することができるようにする。</p> <p>イ 社会的な話題について、話される速さや、使用される語句や文、情報量などにおいて、多くの支援を活用すれば、必要な情報を聞き取り、概要や要点を目的に応じてとらえることができるようにする。</p> <p>(2)</p> <p>ア 日常的话题について、使用される語句や文、情報量などにおいて、多くの支援を活用すれば、必要な情報を読み取り、書き手の意図を把握することができるようにする。</p> <p>イ 社会的な話題について、話される速さや、使用される語句や文、情報量などにおいて、多くの支援を活用すれば、必要な情報を読み取り、概要や要点を目的に応じてとらえることができるようにする。</p> <p>(3) 話すこと[やりとり]</p> <p>ア 日常的话题について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、多くの支援を活用すれば、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを話して伝え合ったり、やり取りを通して必要な情報を得たりすることができるようにする。</p> <p>イ 日常的话题や社会的な話題について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、多くの支援を活用すれば、ディベートやディスカッションなどの活動を通して、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、基本的な語句や文を用いて、意見や主張などを論理の構成や展開を工夫して話して伝えあうことができるようにする。</p> <p>(4) 話すこと[発表]</p> <p>ア 日常的话题について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、多くの支援を活用すれば、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理の構成や展開を工夫して話して伝えることができるようにする。</p> <p>イ 日常的话题や社会的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、多くの支援を活用すれば、スピーチやプレゼンテーションなどの活動を通して、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、基本的な語句や文を用いて、意見や主張などを論理の構成や展開を工夫して話して伝えあうことができるようにする。</p> <p>(5) 書くこと</p> <p>ア 日常的话题について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、多くの支援を活用すれば、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理の構成や展開を工夫して文章を書いて伝えることができるようにする。</p> <p>イ 日常的话题や社会的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、多くの支援を活用すれば、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、基本的な語句や文を用いて、意見や主張などを論理の構成や展開を工夫して文章を書いて伝えることができるようにする。</p>
使用教科書	English Communication「ELEMENT Ⅰ」(啓林館)

副教材等	必携英単語 LEAP(数研出版)、必携英単語 LEAP 活用ノート 1~3(数研出版)、英語長文演習 Applause vol.1&vol.2、(美誠社)、2-Step Reading 標準編&発展編(数研出版)、音のルールが見て分かる Listening Basic(文英堂)
------	---

2 評価の観点等

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解を深めるとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用し、目的や場面、状況などに応じて情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して伝える技能を身につけている。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したことを元に、適切に伝えている。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を身につけている。
評価点	600点	600点	600点

3 評価の計画

学期	単元	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
前期	<p>[1. 身近な話題を発信する]</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 1. Lesson2 Love beyond Species → 身近にある短い物語を英語で理解し、内容を簡潔な英語で発信する ● 2. Lesson3 Contributing to Our Planet → 身近にある問題について英語で理解し、自分の考えを英語で発信する <p>[Listening]</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 1. つながりやすい音や変化しやすい音を聞き分け、自然なスピードの発話を理解することができる(リンキング) ● 2. 発音されなくなる音や弱く発音される語を含んだ発話を理解することができる。(弱化、同化) <p>[Reading]</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 平易な英語で書かれた短い物語(L2)や説明文(L3)を読んで、必要であれば読み直しながら、概要を理解することができる <p>[Speaking(発表)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 本文に関連する写真やキーワードなどの手助けがあれば、短い簡単な表現を使って、話のあらすじ(L2)や話の要点(L3)を伝えることができる 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査等 ・ワークシート ・ポートフォリオ ・パフォーマンス課題 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査等 ・ワークシート ・ポートフォリオ ・パフォーマンス課題 	<ul style="list-style-type: none"> ・ルーブリック ・e-port ・ワークシート ・パフォーマンス課題

<p>[Speaking(やりとり)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 1. ごく身近な事柄について短い定型表現を使えば簡単な質問や応答ができる。 ● 2. 身近な事柄について、何らかの手助けがあれば、自分の意見と理由を短く簡単なことばで伝え合うことができる。 <p>[Writing]</p> <ul style="list-style-type: none"> ● ごく身近な事柄について、簡単な語句や文を用いて書くことができる(描写・説明) <p>[2. 社会的な話題を紹介する]</p> <ul style="list-style-type: none"> ● Lesson4 Messages for World Peace <p>→ 平和に関する説明を読んで登場人物の心情を理解し、自分の考えを英語で発信する</p> <p>[Listening]</p> <ul style="list-style-type: none"> ● はっきりとした、簡単な挨拶や指示を聞いて理解することができる。 <p>[Reading]</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 身近な事柄について平易な英語で書かれた短い説明を読んで、登場人物の心情を理解することができる。 <p>[Speaking(発表)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 本文に関連する写真やキーワードなどの手助けがあれば、短い簡単な表現を使って、話のあらすじを伝えることができる。 <p>[Speaking(やりとり)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 比較的身近で社会的な事柄について、何らかの手助けがあれば、グラフの情報をもとに自分の考えや気持ちなどを伝えることができる。 <p>[Writing]</p> <ul style="list-style-type: none"> ● ごく身近な事柄について、簡単な語句や文を用いて書くことができる。(意見) 			
<p>評価点</p>	<p>300点</p>	<p>300点</p>	<p>300点</p>
<ul style="list-style-type: none"> ● Lesson6 Language and Culture <p>→ 自分の身近な人や物について描写する方法を理解し、適切な英語の表現で発信する</p> <p>[Listening]</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 身近な事柄について、基本的な情報を聞き取ることができる。(日付・曜日・時刻・単位など) <p>[Reading]</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 平易な英語で書かれた短い説明を読んで、概要を理解することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査等 ・ワークシート ・ポートフォリオ ・パフォーマンス課題 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査等 ・ワークシート ・ポートフォリオ ・パフォーマンス課題 	<ul style="list-style-type: none"> ・ループリック ・e-port ・ワークシート ・パフォーマンス課題

<p>後 期</p>	<p>[Speaking(発表)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 1. 本文に関連する写真やキーワードなどの手助けがあれば、簡単な一連の語句や文を使って、話の要点を伝えることができる。 ● 2. 身近な事項について、短い文や簡単な表現を使って、自分の考えや気持ちなどを伝えることができる。 <p>[Speaking(やりとり)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 相手の話に対し、簡単な定型表現を使って、興味があることについて伝えることができる。 <p>[Writing]</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 身近な事項について、簡単な語句や表現を用いて、短い説明文を書くことができる。(例示) <p>[3. 社会的な話題を発信し、議論する]</p> <ul style="list-style-type: none"> ● Lesson 7 Technology and Discoveries → 比較的身近で社会的な事柄についての英語を理解し、内容を英語で発信する <p>[Listening]</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 短いはっきりとした、簡単なメッセージやアナウンスを聞いて必要な情報を聞き取ることができる。 <p>[Reading]</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 身近な事柄について平易な英語で書かれた短い説明を読んで、概要を理解することができる。 <p>[Speaking(発表)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 本文に関連する写真やキーワードなどの手助けがあれば、簡単な一連の語句や文を使って、話の要点を伝えることができる。 <p>[Speaking(やりとり)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 比較的身近で社会的な事柄について、必要に応じて手助けがあれば、簡単な英語を使って意見交換ができる。 <p>[Writing]</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 身近な事柄について、簡単な語句や表現を用いて、短い説明文を書くことができる。(対比) ● Lesson8 Standing Up for Human Rights → 社会的な事柄について英語で理解し、内容 			
----------------	---	--	--	--

<p>を簡潔な英語で発信する。</p> <p>[Listening]</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 身近な事柄について、短いはっきりとした会話を聞いて概要を理解することができる。 <p>[Reading]</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 社会的な事柄について平易な英語で書かれた短い説明を読んで、登場人物の心情をおさえ、概要を理解することができる。 <p>[Speaking(発表)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ●1. 本文に関連する写真やキーワードなどの手助けがあれば、簡単な一連の語句や文を使って、話のあらすじを伝えることができる。 ●2. 社会的な事柄について、短い英文や簡単な表現をつなげて発表することができる。 <p>[Speaking(やりとり)]</p> <p>設定なし</p> <p>[Writing]</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 身近な事柄について、簡単な語句や表現を用いて、短い説明文を書くことができる。(時系列) 			
評価点	300点	300点	300点

4 指導の計画

学期	月	単元及び学習内容	時数
前期	4	Lesson2 → 身近にある短い物語を英語で理解し、内容を簡潔な英語で発信する	16
	5	探究活動1 Book Talk (プレゼン)	
		Lesson3 → 身近にある問題について英語で理解し、自分の考えを英語で発信する	18
	6	探究活動2 Discussion (討論)	
		第1回考査	
	7	Lesson4 平和に関する説明を読んで登場人物の心情を理解し、自分の考えを英語で発信する	18
		探究活動3 平和の伝承 (プレゼン)	
	8		

	9		
		第2回考査	
		●.....	
後 期	10	Lesson6 → 自分の身近な人や物について描写する方法を理解し、適切な英語の表現で発信する	18
	11	Lesson 7 → 比較的身近で社会的な事柄についての英語を理解し、内容を英語で発信する	17
		第3回考査	
	12	●.....	
	1	Lesson8 → 社会的な事柄について英語で理解し、内容を簡潔な英語で発信する	
	2		18
	3	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> 探究活動5 偉人博覧会（やりとり） </div>	
		第4回考査	
		●.....	

5 その他

年間指導計画表(シラバス)

科目名	論理・表現 I	単位数	2単位
		学年等	1年生

1 学習の到達目標等

学習の 到達目標	<p>英語学習の特質を踏まえ、以下に示す、話すこと[やりとり]、話すこと[発表]、書くことの三つの領域別に設定する目標の実現を目指した指導を通して、外国語科の定める「知識・技能」「思考・判断・表現」を一体的に育成するとともに、その過程を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を育成する。</p> <p>(1) 話すこと[やりとり]</p> <p>ア 日常的な話題について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、多くの支援を活用すれば、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを話して伝え合ったり、やり取りを通して必要な情報を得たりすることができるようにする。</p> <p>イ 日常的な話題や社会的な話題について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、多くの支援を活用すれば、ディベートやディスカッションなどの活動を通して、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、基本的な語句や文を用いて、意見や主張などを論理の構成や展開を工夫して話して伝えあうことができるようにする。</p> <p>(2) 話すこと[発表]</p> <p>ア 日常的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、多くの支援を活用すれば、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理の構成や展開を工夫して話して伝えることができるようにする。</p> <p>イ 日常的な話題や社会的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、多くの支援を活用すれば、スピーチやプレゼンテーションなどの活動を通して、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、基本的な語句や文を用いて、意見や主張などを論理の構成や展開を工夫して話して伝えあうことができるようにする。</p> <p>(3) 書くこと</p> <p>ア 日常的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、多くの支援を活用すれば、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理の構成や展開を工夫して文章を書いて伝えることができるようにする。</p> <p>イ 日常的な話題や社会的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、多くの支援を活用すれば、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、基本的な語句や文を用いて、意見や主張などを論理の構成や展開を工夫して文章を書いて伝えることができるようにする。</p>
使用教科書 副教材等	Genius English Logic and Expression I (大修館書店)、 ジーニアス総合英語 第2版(大修館書店)、Genius English Logic and Expression I グラマ ー・ノート(大修館書店)

2 評価の観点等

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解を深めるとともに、これらの知識を、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的话题や社会的な話題について、情報を整理しながら外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を身につ

	し、目的や場面、状況などに応じて情報や考えなどを論理の構成や展開を工夫して効果的に伝える技能を身につけている。	き手の意図などを適切に表現したり伝えあったりしている。	けている。
評価点	600点	600点	600点

3 評価の計画

学期	単元	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
前期	[1. 自分のことや身近な人のことを話す] Lesson 1 Introducing Yourself Lesson 2 Talking about a Family Member or Friend Lesson 3 Talking about Your School Lesson 4 Making Plans for the Weekend Lesson 5 Sharing Experiences [2. 自分のことや身近な事物について説明する/意見する] Lesson 6 Learning Your Way around at School Lesson 7 Looking Back Lesson 8 Recommending the Perfect Place to Go Lesson 9 Staying Healthy Lesson 10 Thinking about Your Future [3. 自分の身近にある事物について意見する/報告する] Lesson 11 Japanese Educational Practices Lesson 12 School Events Lesson 13 Better Choices	・定期考査等 ・ワークシート ・ポートフォリオ ・パフォーマンス課題	・定期考査等 ・ワークシート ・ポートフォリオ ・パフォーマンス課題	・ルーブリック ・e-port ・ワークシート ・パフォーマンス課題
	評価点	300点	300点	300点

後 期	Lesson 14 A Person You Look up To Lesson 15 Extracurricular Activities [4. 社会的な話題について意見する/報告する] Lesson 16 What Can We Do to Save Resources? Lesson 17 What If It Had Never Happened? Lesson 18 How Can We Protect the Earth? Lesson 19 Can Technology Make the World a Better Place? Lesson 20 What Do You Like About Japanese Culture?	・定期考査等 ・ワークシート ・ポートフォリオ ・パフォーマンス課題	・定期考査等 ・ワークシート ・ポートフォリオ ・パフォーマンス課題	・ルーブリック ・e-port ・ワークシート ・パフォーマンス課題
	評価点	300点	300点	300点

4 指導の計画

学期	月	単元及び学習内容	時数
前 期	4	[1. 自分のことや身近な人のことを話す] Lesson 1 Introducing Yourself Lesson 2 Talking about a Family Member or Friend Lesson 3 Talking about Your School	20
	5	Lesson 4 Making Plans for the Weekend Lesson 5 Sharing Experiences 自分のプロモーションビデオを英語で作成する	
	6	[2. 自分のことや身近な事物について説明する/意見する] Lesson 6 Learning Your Way around at School Lesson 7 Looking Back Lesson 8 Recommending the Perfect Place to Go	
	7	●.....第1回考査	
	8	Lesson 9 Staying Healthy Lesson 10 Thinking about Your Future [3. 自分の身近にある事物について意見する/報告する] Lesson11 Japanese Educational Practices Lesson12 School Events 学校に関する記事を英語で作成する	14

	9	Lesson13 Better Choices ●.....第2回考査	
後 期	10	Lesson 14 A Person You Look up To Lesson 15 Extracurricular Activities	14
	11	ツアーの計画を英語で立てる	
	12	[4. 社会的な話題について意見する/報告する] Lesson 16 What Can We Do to Save Resources?	22
	1	Lesson 17 What If It Had Never Happened? Lesson 18 How Can We Protect the Earth?	
	2	●.....第3回考査	
	3	Lesson 19 Can Technology Make the World a Better Place? Lesson20 What Do You Like about Japanese Culture? 将来残したいものを英語で語る	
		●.....第4回考査	

5 その他

年間指導計画表(シラバス)

科目名	家庭基礎	単位数	2 単位
		学年等	1 年生

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	<p>生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1)人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的に捉え、家族・家庭の意義、家族・家庭の社会との関りについて理解を深め、家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて、生活を主体的に営むための必要な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2)家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して課題を解決する力を養う。</p> <p>(3)様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を養う。</p>
使用教科書 副教材等	<p>教科書 開隆堂「家庭基礎 明日の生活を築く」</p> <p>資料集 第一学習社「生活ハンドブック」資料&成分表</p> <p>自主教材 ワークシート</p>

2 評価の観点等

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	生活を主体的に営むために必要な人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などの基礎的なことについて理解しているとともに、それらに係る技能を身に付けている。	生涯を見通して、家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身につけている。	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。
評価点	200 点	200 点	200 点

3 評価の計画

学期	単元	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
前期	A 人の一生と家族・家庭及び福祉 1章 青年期の自立 1.2 2章 家族・家庭 1.2.3.4	・定期考査等 ・ワークシートの記述分析 ・実技	・定期考査等 ・ワークシートの記述分析 ・実技	・授業中の行動観察 ・ワークシートの記述分析 ・実技
	C 消費生活と持続可能な社会 1章 生活を支える経済 1.2.3 2章 消費行動と意思決定 1.2.3			
	D ホームプロジェクト C 消費生活と持続可能な社会 3章 持続可能なライフスタイルと環境 1.2.3			
	評価点	100 点	100 点	100 点

後期	B 衣食住の生活と健康 1章 食生活と健康 1.2.3.4.5.6.7 2章 衣生活と健康 1.2.3.4.5 A 人の一生と家族・家庭及び福祉 3章 子どもの生活と保育 1.2.3.4 B 衣食住の生活と健康 3章 住生活と環境 1.2.3 A 人の一生と家族・家庭及び福祉 4章 高齢者の生活と福祉 1.2 5章 共生社会を生きる	・定期考査等 ・ワークシートの記述分析 ・実技	・定期考査等 ・ワークシートの記述分析 ・実技	・授業中の行動観察 ・ワークシートの記述分析 ・実技
	評価点	100点	100点	100点

4 指導の計画

学期	月	単元及び学習内容	時数	
前期	4	「家庭基礎」の学習について A 人の一生と家族・家庭及び福祉 1章 青年期の自立 1 人の一生と生活課題 2 将来を見通しこれからを生きる	22	
	5	2章 家族・家庭 1 自分が拓く人生 2 個人・家族と地域・社会 3 家族と法律 4 持続可能な家庭生活		
	6	C 消費生活と持続可能な社会 1章 生活を支える経済 1 収入と支出 2 貯蓄と負債 3 世界とつながる家計		
	7	◆-----第1回考査 2章 消費行動と意思決定 1 消費生活の現状 2 消費社会の落とし穴 3 行動する消費者		
	8	D ホームプロジェクト		
	9	C 消費生活と持続可能な社会 3章 持続可能なライフスタイルと環境 1 消費生活の裏側で 2 消費者として取り組む 3 持続可能な社会とライフスタイル		
				パフォーマンス課題1 名刺作成
				パフォーマンス課題2 ライフプラン作成
				探究活動1 持続可能な家庭生活
				パフォーマンス課題3 人生の経済シミュレーション
		パフォーマンス課題4 ホームプロジェクトをプレゼンテーション		
		実習1 持続可能なエコラップを作ろう	16	

後 期	10	B 衣食住の生活と健康 1章 食生活と健康 1 日本の食生活の今 2 五大栄養素の働きと食品 3 おいしさと安全の科学 4 さあ 料理を始めよう 5 料理の組み合わせを考えよう	実習 2 調理実習	16		
	11	6 多様な食文化 7 持続可能な食生活	探究活動3 持続可能な食生活			
	12	2章 衣生活と健康 1 人間と被服 2 被服の科学と管理 3 被服の選択と安全 4 被服を活用するために 5 持続可能な衣生活	実習 3 被服実習			
			探究活動4 持続可能な衣生活			
			第3回考査			
	1	A 人の一生と家族・家庭及び福祉 3章 子どもの生活と保育 1 子どもの世界 2 育つ子ども 3 子どもとかがわる 4 子どもの育ちを支える	パフォーマンス課題5 子どもへの接し方を考えよう。		16	
		B 衣食住の生活と健康 3章 住生活と環境 1 人と住まい 2 健康で快適、安全な住まい 3 持続可能な住生活	探究活動 5 持続可能な住生活			
		A 人の一生と家族・家庭及び福祉 4章 高齢期の生活と福祉 1 さまざまな高齢期 2 高齢者の生活と福祉	実習 4 高齢者疑似体験			
		3	5章 共生社会を生きる —誰もがその人らしく生活する—			探究活動 6 持続可能な共生社会
			第4回考査			

5 その他

- 1日に2時間連続で授業があります。
- 毎時間のワークシートの内容、授業規律の定着度(調理実習時の服装も含む)、授業への取り組み、定期考査、課題、提出物の状況を総合的に判断して評価します。

年間指導計画表(シラバス)

科目名	情報 I	単位数	2単位
		学年等	1年生

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	<p>情報に関する科学的な見方・考え方を働かせ、情報技術を適切かつ効果的に活用し、必要に応じて情報を表現する能力を次の通り育成することを目指す。</p> <p>(1) 効果的なコミュニケーションの実現、コンピュータやデータの活用について理解を深め技能を習得するとともに、情報社会と人との関わりについて理解を深めるようにする。</p> <p>(2) 様々な事象を情報とその結び付きとして捉え、問題の発見・解決に向けて情報技術を適切かつ効果的に活用する力を養う。</p> <p>(3) 情報と情報技術を適切に活用するとともに、情報社会に主体的に参画する態度を養う。</p>
使用教科書 副教材等	<p>教科書:『情報 I Step Forward!』(東京書籍)</p> <p>副教材:『ニューステップアップ 情報 I』(東京書籍)</p> <p>『ポイントでマスター 基礎からはじめる 情報リテラシー』(実教出版)</p>

2 評価の観点等

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	効果的なコミュニケーションの実現、コンピュータやデータの活用について理解し、技能を身につけるとともに、情報社会と人との関わりについて理解している。	事象を情報とその結び付きの視点から捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に用いている。	情報社会との関わりについて考えながら、問題の発見・解決に向けて主体的に情報と情報技術を活用し、自ら評価し改善している。
評価点	400点	400点	400点

3 評価の計画

学期	単元	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
前期	1章 情報社会 ワープロソフトの活用 (Microsoft Word)	考査 実技テスト タイピングテスト	考査 実技テスト タイピングテスト 成果物	ワークシート プリント 成果物
	2章 情報デザイン 表計算ソフトの活用 (Microsoft Excel[基本])			
	評価点	200点	200点	200点
後期	3章 プログラミング 表計算ソフトの活用 (Microsoft Excel[応用])	考査 実技テスト タイピングテスト	考査 実技テスト タイピングテスト 成果物	ワークシート プリント 成果物 プレゼンテーション
	4章 ネットワークの活用 プレゼンテーションソフトの活用 (Microsoft PowerPoint)		プレゼンテーション	
	評価点	200点	200点	200点

4 指導の計画

学期	月	単元及び学習内容	時数	
前期	4	1章 情報社会 1. 情報とその特性 2. メディアとその特性 3. 問題を解決する方法 4. 情報の収集と分析	17	
	5	5. 解決方法の考案 6. 知的財産 7. 個人情報 8. 情報セキュリティ		
	6	9. 情報モラルと個人の責任 10. 情報技術の進歩と役割 11. 情報技術が社会に与える光と影		
	◆-----第1回考査			
	7	2章 情報デザイン 12. コミュニケーションとメディア 13. 情報のデジタル化 14. 数値の表現 15. 2進法の計算		18
	8	16. 文字のデジタル表現 17. 音のデジタル表現 18. 画像のデジタル表現 19. データの圧縮		
	9	20. デジタルデータの特徴 21. メディアと文化の発展 22. ネットコミュニケーションの特徴 23. 情報デザイン		
		24. 操作性の向上と情報技術 25. 全ての人に伝わるデザイン 26. コンテンツ設計		
	◆-----第2回考査			

後 期	9	3章 プログラミング 27. コンピュータの構成 28. ソフトウェア 29. 処理の仕組み 30. 論理回路	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【実習】</p> <p>Microsoft Excel[応用]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな関数を利用する ・データベース的に利用する <p>プログラミング(JavaScript)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計算 ・繰り返し ・条件分岐 ・リスト ・乱数 </div>	18	
	10	31. アルゴリズムの表現 32. アルゴリズムの効率性 33. プログラムの仕組み 34. プログラミング入門 35. プログラムの応用			
	11	36. 問題のモデル化 37. モデル化の活用 38. シミュレーション 39. シミュレーションの活用			
	12	◆-----第3回考査			
	1	4章 ネットワークの活用 40. 情報通信ネットワーク 41. デジタル通信の仕組み 42. インターネットの利用 43. 安心安全を守る仕組み 44. 情報システム 45. さまざまな情報システム 46. 情報システムの信頼性 47. データの活用とデータベース		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【実習】</p> <p>Microsoft PowerPoint</p> <ul style="list-style-type: none"> ・簡単なプレゼンテーションを作成する ・オブジェクトを挿入する ・Excel の利用 ・効果的なプレゼンテーションをする <p>プレゼンテーション(グループワーク)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループに分かれてプレゼンを行う </div>	17
	2	48. データの管理 49. データの収集と種類 50. データの分析 51. 不確実な事象の解釈 52. 2つのデータの関係			
	3	◆-----第4回考査			

5 その他

- 実習の空き時間にはタイピングソフトを活用し、入力の速度と正確性を鍛える。
- 成果物や提出物は常に締切を意識し、計画的に進める。
- 実技テストは追試を行います。

年間指導計画表(シラバス)

科目名	英語総合 I	単位数	1単位
		学年等	1年生普通科国際コミュニケーションコース

1 学習の到達目標等

学習の 到達目標	<p>英語学習の特質を踏まえ、以下に示す、聞くこと、読むこと、話すこと[やりとり]、話すこと[発表]、書くことの五つの領域別に設定する目標の実現を目指した指導を通して、英語科の定める「知識・技能」「思考・判断・表現」を一体的に育成するとともに、その過程を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を育成する。</p> <p>(1)聞くこと ア 世界の様々な国の日常的な話題について、話される速さや、使用される語句や文、情報量などにおいて、一定の支援を活用すれば、必要な情報を聞き取り、話し手の意図を把握することができるようにする。 イ 世界の様々な国の社会的な話題について、話される速さや、使用される語句や文、情報量などにおいて、一定の支援を活用すれば、必要な情報を聞き取り、概要や要点を目的に応じて捉えることができるようにする。</p> <p>(2)読むこと ア 世界の様々な国の日常的な話題について、使用される語句や文、情報量などにおいて、一定の支援を活用すれば、必要な情報を読み取り、書き手の意図を把握することができるようにする。 イ 世界の様々な国の社会的な話題について、使用される語句や文、情報量などにおいて、一定の支援を活用すれば、必要な情報を読み取り、概要や要点を目的に応じて捉えることができるようにする。</p> <p>(3)話すこと[やり取り] ア 世界の様々な国の日常的な話題について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、一定の支援を活用すれば、多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを話して伝え合うやり取りを続けることができるようにする。 イ 世界の様々な国の社会的な話題について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、一定の支援を活用すれば、聞いたり読んだりしたことを基に、多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して話して伝え合うことができるようにする。</p> <p>(4)話すこと[発表] ア 世界の様々な国の日常的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、一定の支援を活用すれば、多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して話して伝えることができるようにする。 イ 世界の様々な国の社会的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、一定の支援を活用すれば、聞いたり読んだりしたことを基に、多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して話して伝えることができるようにする。</p>
	使用教科書 副教材等

2 評価の観点等

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	英語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解を深めるとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる世界の様々な国の人々との実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けるようにする。	世界の様々な国の人々との実際のコミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、英語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。	英語の背景にある文化に対する理解を深め、世界の様々な国の人々が聞き手、読み手、話し手、書き手であることに配慮しながら、主体的、自律的に英語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。
評価点	600点	600点	600点

3 評価の計画

学期	単元	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
前期	事前学習 (自己分析、プレゼンテーションスキル) 世界とつながる探究① (候補: フィリピン) 世界とつながる探究② (候補: インドネシア)	・ポートフォリオやワークシートの記述分析 ・定期考査等	・ポートフォリオやワークシートの記述分析 ・定期考査等	・ポートフォリオやワークシートの記述分析 ・学習課題等
	評価点	300点	300点	300点
後期	世界とつながる探究③ (候補: グアテマラ) 世界とつながる探究①～③のまとめ ・発表・振り返り (パネルディスカッション)	・ポートフォリオやワークシートの記述分析 ・定期考査等	・ポートフォリオやワークシートの記述分析 ・定期考査等	・ポートフォリオやワークシートの記述分析 ・学習課題等
	評価点	300点	300点	300点

4 指導の計画

学期	月	単元及び学習内容	時数
前期	4	<p>事前学習</p> <p>◎社会課題を自分ごと化するってどういうことだろう。</p> <p>○他の国の人と話すとどんなことがわかるだろう。</p> <p>【自己分析】現時点で個人がどのような社会課題に関心があるのかを自己分析し、深く調べてみたい社会問題をワークシートに記入、提出する。</p> <p>○プレゼンテーションワークショップ①</p> <p>1 時間目に記入した社会課題を元にグループ編成し、グループごとで調べ学習・プレゼン作りを行う</p> <p>○プレゼンテーションワークショップ②</p> <p>各グループでスライド一枚のプレゼンテーションを作成し、他グループに発表する。+1 グループ最低 2 つ質問</p> <p>○ワークショップ① 写真を見て説明してみるコーナー(食べ物、広島の場合)</p> <p>○ワークショップ② 3 回目で行ったプレゼンを英語で行う+1 グループ最低 2 つ質問</p>	9
	5	<p>世界とつながる探究①</p> <p>フィリピン(候補)の学校とのオンラインセッション(計 5 回)</p> <p>セッション内容案(以下の候補から相手に応じて選択する)</p> <p>初級編 食文化、衣服、祝日</p>	
	6	<p>中級編 宗教、民族、アート、観光、戦争と平和(過去)</p> <p>上級編 環境正義、経済格差、ジェンダー、健康格差+健康度合い、戦争と平和(現在)、エネルギー問題</p> <p style="text-align: right;">----- 第1回考査(実施なし)</p>	
	7	<p>世界とつながる探究①の続き</p>	
	8	<p>世界とつながる探究②</p> <p>インドネシア(候補)オンラインセッション(計 5 回)</p> <p>セッション内容案(以下の候補から相手に応じて選択する)</p> <p>初級編 食文化、衣服、祝日</p>	
	9	<p>中級編 宗教、民族、アート、観光、戦争と平和(過去)</p> <p>上級編 環境正義、経済格差、ジェンダー、健康格差+健康度合い、戦争と平和(現在)、エネルギー問題</p> <p style="text-align: right;">----- 第2回考査(実施)</p>	8

後 期	10	世界とつながる探究③ グアテマラ(候補)の学校とのオンラインセッション(計5回) セッション内容案(以下の候補から相手に応じて選択する) 初級編 食文化、衣服、祝日 中級編 宗教、民族、アート、観光、戦争と平和(過去) 上級編 環境正義、経済格差、ジェンダー、健康格差+健康度合い、 戦争と平和(現在)、エネルギー問題	9	
	11	第3回考査(実施なし)		
	12	パネルディスカッション・振り返り ○GY4 Colloquium に向けた準備 ※GY5 Global Youth 4 の略称 グループをさらに二つに分け、各国4人ずつ代表となる ○GY4 Colloquium #1(日常生活+文化編) 日本を含めた5カ国間で会合(パネルディスカッション)を行う グループをさらに二つに分け、各国4人ずつ代表となる(ファシリテーター2名が進行役) ○GY4 Colloquium #2(社会格差+環境課題編) 日本を含めた4カ国間で会合(パネルディスカッション)を行う グループをさらに二つに分け、各国4人ずつ代表となる(ファシリテーター2名が進行役) ○GY4 Colloquium #1(日常生活+文化編) 日本を含めた4カ国間で会合(パネルディスカッション)を行う グループをさらに二つに分け、各国4人ずつ代表となる(ファシリテーター2名が進行役) ○GY4 Colloquium #2(社会格差+環境課題編) 日本を含めた4カ国間で会合(パネルディスカッション)を行う グループをさらに二つに分け、各国4人ずつ代表となる(ファシリテーター2名が進行役) ○プロジェクトのまとめ 個人で活動を振り返り、プロジェクト実施前と後でどのように変化があったか自己分析する。 第4回考査(実施)		9
	1			
	2			
	3			

5 その他

- 基本はLL教室を使用し、classroom等を活用しながらオンラインベースで授業を進めていきます。
- オンラインセッションの相手国については、国際情勢や時差等を考慮し、変更がある場合があります。
- 定期考査は、第2回と第4回のみ実施します。

年間指導計画表(シラバス)

科目名	国際理解・フランス語	単位数	1単位
		学年等	1年生普通科国際コミュニケーションコース

1 学習の到達目標等

学習の 到達目標	<p>フランス語学習の特質を踏まえ、以下に示す、聞くこと、読むこと、話すこと[やりとり]、話すこと[発表]、書くことの五つの領域別に設定する目標の実現を目指した指導を通して、外国語科の定める「知識・技能」「思考・判断・表現」を一体的に育成するとともに、その過程を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を育成する。</p> <p>(1)聞くこと</p> <p>ア 日常的な話題について、話される速さや、使用される語句や文、情報量などにおいて、多くの支援を活用すれば、必要な情報を聞き取り、話し手の意図を把握することができるようにする。</p> <p>イ 社会的な話題について、話される速さや、使用される語句や文、情報量などにおいて、多くの支援を活用すれば、必要な情報を聞き取り、概要や要点を目的に応じてとらえることができるようにする。</p> <p>(2)読むこと</p> <p>ア 日常的な話題について、使用される語句や文、情報量などにおいて、多くの支援を活用すれば、必要な情報を読み取り、書き手の意図を把握することができるようにする。</p> <p>イ 社会的な話題について、話される速さや、使用される語句や文、情報量などにおいて、多くの支援を活用すれば、必要な情報を読み取り、概要や要点を目的に応じてとらえることができるようにする。</p> <p>(3)話すこと[やりとり]</p> <p>ア 日常的な話題について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、多くの支援を活用すれば、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを話して伝え合ったり、やり取りを通して必要な情報を得たりすることができるようにする。</p> <p>イ 日常的な話題や社会的な話題について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、多くの支援を活用すれば、ディベートやディスカッションなどの活動を通して、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、基本的な語句や文を用いて、意見や主張などを論理の構成や展開を工夫して話して伝えあうことができるようにする。</p> <p>(4)話すこと[発表]</p> <p>ア 日常的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、多くの支援を活用すれば、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理の構成や展開を工夫して話して伝えることができるようにする。</p> <p>イ 日常的な話題や社会的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、多くの支援を活用すれば、スピーチやプレゼンテーションなどの活動を通して、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、基本的な語句や文を用いて、意見や主張などを論理の構成や展開を工夫して話して伝えあうことができるようにする。</p> <p>(5)書くこと</p> <p>ア 日常的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、多くの支援を活用すれば、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理の構成や展開を工夫して文章を書いて伝えることができるようにする。</p> <p>イ 日常的な話題や社会的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、多くの支援を活用すれば、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、基本的な語句や文を用いて、意見や主張などを論理の構成や展開を工夫して文章を書いて伝えることができるようにする。</p>
-------------	--

使用教科書 副教材等	(1)inspire 1 (A1 cahier d'activités) (Hachette FLE) (2)仏和辞典 (3)自主作成プリント
---------------	---

2 評価の観点等

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	フランス語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解を深めるとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用し、目的や場面、状況などに応じて情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して伝える技能を身につけている。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、フランス語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したことを元に、適切に伝えている。	フランス語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的にフランス語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を身につけている。
評価点	600点	600点	600点

3 評価の計画

学期	単元	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
前期	inspire 1 Unit 1~4	・ポートフォリオやワークシートの記述分析 ・定期考査	・ポートフォリオやワークシートの記述分析 ・定期考査	・ポートフォリオやワークシートの記述分析 ・学習課題等
	評価点	300点	300点	300点
後期	inspire 1 Unit 5~9	・ポートフォリオやワークシートの記述分析 ・定期考査	・ポートフォリオやワークシートの記述分析 ・定期考査	・ポートフォリオやワークシートの記述分析 ・学習課題等
	評価点	300点	300点	300点

4 指導の計画

学期	月	単元及び学習内容	時数
前期	4	学習内容 (1)inspire 1 Unit 1~4	18
	5	(2)自主作成プリント 学習のねらい	
	6	(1)フランス語の発音とつづり字の読み方の概要を学ぶ。 (2)数字0から2000まで習得し、話し聞き取れるようになる。	
	7	(3)自己紹介と他者について語る表現を習得し、話し聞き取れるようになる。	
	8		
	9	第2回考査	
後期	10	学習内容 (1)inspire 1 Unit 5~9	17
	11	(2)自主作成プリント 学習のねらい	
	12	(1)総合テストを行い、学習内容を習得する。 (2)時刻の表現を学び、自分の生活のしかたを話せるようになる。	
	1	(3)相手・第三者の生活のしかたについて質問し、聞き取れるようになる。	
	2	(4)授業を通して、フランスおよびヨーロッパの文化や社会に対する基本的な知識を身に付ける。	
	3	第4回考査	

5 その他

○定期考査は、第2回と第4回のみ実施します。

年間指導計画表(シラバス)

科目名	国際理解・中国語	単位数	1単位
		学年等	1年生普通科国際コミュニケーションコース

1 学習の到達目標等

学習の 到達目標	<p>中国語学習の特質を踏まえ、以下に示す、聞くこと、読むこと、話すこと[やりとり]、話すこと[発表]、書くことの五つの領域別に設定する目標の実現を目指した指導を通して、外国語科の定める「知識・技能」「思考・判断・表現」を一体的に育成するとともに、その過程を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を育成する。</p> <p>(1)聞くこと</p> <p>ア 日常的な話題について、話される速さや、使用される語句や文、情報量などにおいて、多くの支援を活用すれば、必要な情報を聞き取り、話し手の意図を把握することができるようにする。</p> <p>イ 社会的な話題について、話される速さや、使用される語句や文、情報量などにおいて、多くの支援を活用すれば、必要な情報を聞き取り、概要や要点を目的に応じてとらえることができるようにする。</p> <p>(2)読むこと</p> <p>ア 日常的な話題について、使用される語句や文、情報量などにおいて、多くの支援を活用すれば、必要な情報を読み取り、書き手の意図を把握することができるようにする。</p> <p>イ 社会的な話題について、話される速さや、使用される語句や文、情報量などにおいて、多くの支援を活用すれば、必要な情報を読み取り、概要や要点を目的に応じてとらえることができるようにする。</p> <p>(3)話すこと[やりとり]</p> <p>ア 日常的な話題について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、多くの支援を活用すれば、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを話して伝え合ったり、やり取りを通して必要な情報を得たりすることができるようにする。</p> <p>イ 日常的な話題や社会的な話題について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、多くの支援を活用すれば、ディベートやディスカッションなどの活動を通して、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、基本的な語句や文を用いて、意見や主張などを論理の構成や展開を工夫して話して伝えあうことができるようにする。</p> <p>(4)話すこと[発表]</p> <p>ア 日常的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、多くの支援を活用すれば、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理の構成や展開を工夫して話して伝えることができるようにする。</p> <p>イ 日常的な話題や社会的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、多くの支援を活用すれば、スピーチやプレゼンテーションなどの活動を通して、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、基本的な語句や文を用いて、意見や主張などを論理の構成や展開を工夫して話して伝えあうことができるようにする。</p> <p>(5)書くこと</p> <p>ア 日常的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、多くの支援を活用すれば、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理の構成や展開を工夫して文章を書いて伝えることができるようにする。</p> <p>イ 日常的な話題や社会的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、多くの支援を活用すれば、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、基本的な語句や文を用いて、意見や主張などを論理の構成や展開を工夫して文章を書いて伝えることができるようにする。</p>
-------------	--

使用教科書 副教材等	新・高校版 中国語はじめの一步(白水社) 自作プリント
---------------	--------------------------------

2 評価の観点等

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	中国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解を深めるとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用し、目的や場面、状況などに応じて情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して伝える技能を身につけている。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、中国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したことを元に、適切に伝えている。	中国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に中国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を身につけている。
評価点	600点	600点	600点

3 評価の計画

学期	単元	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
前期	主に中国語の基礎(ピンイン)、基本文型を学ぶ。	・ポートフォリオやワークシートの記述分析 ・定期考査	・ポートフォリオやワークシートの記述分析 ・定期考査	・ポートフォリオやワークシートの記述分析 ・学習課題等
	評価点	300点	300点	300点
後期	主に中国語の基礎(ピンイン)、基本文型を学ぶ。	・ポートフォリオやワークシートの記述分析 ・定期考査	・ポートフォリオやワークシートの記述分析 ・定期考査	・ポートフォリオやワークシートの記述分析 ・学習課題等
	評価点	300点	300点	300点

4 指導の計画

学期	月	単元及び学習内容	時数
前期	4	学習内容	18
	5	主に中国語の基礎(ピンイン)、基本文型を学ぶ。 学習のねらい	
	6	中国語の発音の基礎「ピンイン」と名前の言い方を学習する。 人称代名詞・指示代名詞、「主語+述語」・「主語+述語+目的語」を学習する。授業を通して、中国の社会、文化に対する基本的な知識を身に付ける。	
	7		
	8		
	9	←-----第2回考査	
後期	10		17
	11	学習内容	
	12	主に中国語の基礎(ピンイン)、基本文型を学ぶ。 学習のねらい	
	1	数字・親族呼称・衣食住についての言い方、疑問詞と疑問文を学習する。 比較文、選択疑問文、前置詞の使い方、主述述語文を学習する。 まとめ、総合練習を行う。	
	2		
	3	←-----第4回考査	

5 その他

○定期考査は、第2回と第4回のみ実施します。

年間指導計画表(シラバス)

科目名	国際理解・韓国・朝鮮語	単位数	1単位
		学年等	1年生普通科国際コミュニケーションコース

1 学習の到達目標等

学習の 到達目標	<p>韓国・朝鮮語学習の特質を踏まえ、以下に示す、聞くこと、読むこと、話すこと[やりとり]、話すこと[発表]、書くことの五つの領域別に設定する目標の実現を目指した指導を通して、外国語科の定める「知識・技能」「思考・判断・表現」を一体的に育成するとともに、その過程を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を育成する。</p> <p>(1)聞くこと</p> <p>ア 日常的な話題について、話される速さや、使用される語句や文、情報量などにおいて、多くの支援を活用すれば、必要な情報を聞き取り、話し手の意図を把握することができるようにする。</p> <p>イ 社会的な話題について、話される速さや、使用される語句や文、情報量などにおいて、多くの支援を活用すれば、必要な情報を聞き取り、概要や要点を目的に応じてとらえることができるようにする。</p> <p>(2)読むこと</p> <p>ア 日常的な話題について、使用される語句や文、情報量などにおいて、多くの支援を活用すれば、必要な情報を読み取り、書き手の意図を把握することができるようにする。</p> <p>イ 社会的な話題について、話される速さや、使用される語句や文、情報量などにおいて、多くの支援を活用すれば、必要な情報を読み取り、概要や要点を目的に応じてとらえることができるようにする。</p> <p>(3)話すこと[やりとり]</p> <p>ア 日常的な話題について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、多くの支援を活用すれば、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを話して伝え合ったり、やり取りを通して必要な情報を得たりすることができるようにする。</p> <p>イ 日常的な話題や社会的な話題について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、多くの支援を活用すれば、ディベートやディスカッションなどの活動を通して、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、基本的な語句や文を用いて、意見や主張などを論理の構成や展開を工夫して話して伝えあうことができるようにする。</p> <p>(4)話すこと[発表]</p> <p>ア 日常的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、多くの支援を活用すれば、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理の構成や展開を工夫して話して伝えることができるようにする。</p> <p>イ 日常的な話題や社会的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、多くの支援を活用すれば、スピーチやプレゼンテーションなどの活動を通して、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、基本的な語句や文を用いて、意見や主張などを論理の構成や展開を工夫して話して伝えあうことができるようにする。</p> <p>(5)書くこと</p> <p>ア 日常的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、多くの支援を活用すれば、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理の構成や展開を工夫して文章を書いて伝えることができるようにする。</p> <p>イ 日常的な話題や社会的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、多くの支援を活用すれば、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、基本的な語句や文を用いて、意見や主張などを論理の構成や展開を工夫して文章を書いて伝えることができるようにする。</p>
-------------	---

使用教科書 副教材等	(1)한국어 1・韓国語1(TWO PONDS [주] 문 진 미 디 어) (2)自主作成教材
---------------	---

2 評価の観点等

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	韓国・朝鮮語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解を深めるとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用し、目的や場面、状況などに応じて情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して伝える技能を身につけている。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、韓国・朝鮮語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したことを元に、適切に伝えている。	韓国・朝鮮語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に韓国・朝鮮語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を身につけている。
評価点	600点	600点	600点

3 評価の計画

学期	単元	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
前期	TWO PONDS1 第1課～第5課	・ポートフォリオやワークシートの記述分析 ・定期考査	・ポートフォリオやワークシートの記述分析 ・定期考査	・ポートフォリオやワークシートの記述分析 ・学習課題等
	評価点	300点	300点	300点
後期	TWO PONDS1 第9課～第10課	・ポートフォリオやワークシートの記述分析 ・定期考査	・ポートフォリオやワークシートの記述分析 ・定期考査	・ポートフォリオやワークシートの記述分析 ・学習課題等
	評価点	300点	300点	300点

4 指導の計画

学期	月	単元及び学習内容	時数	
前期	4	学習内容 (1)TWO PONDS1	18	
	5	1課 教室-1 2課 教室-2 3課 自己紹介 4課 教室-3 5課 簡単な対話		
	6	子音 母音 半切表 平音(1) 平音(2) 激音		
	7	濃音 合成母音 パッチム N은 무엇입니까?		
	8	N입니까?아니요 N가 아닙니다. V 습니다/입니다.		
	9	(으)십시오. N은 V지 않습니다. (2)自主作成プリント		
	----- 第2回考查			
	10	学習内容 (1) TWO PONDS1		
	11	6課 天気 7課 曜日 8課 部屋 9課 昨日のこと 10課 部屋		
12	助詞, N이 A입니다.			
1	曜日, 羅列の連結語尾 S고 S V/A 아요/어요			
2	過去形 V/A 았어요/었어요 変則 S지만 S			
3	「韓国語スピーチ」発表会 (2)自主作成プリント			
----- 第4回考查				

5 その他

○定期考查は、第2回と第4回のみ実施します。

令和6年度 ABLE Time (エイブル タイム) (総合的な探究の時間) 年間指導計画

広島市立舟入 高等学校 全日制 課程 (普通科普通、普通科国際コミュニケーションコース) 実施学年 (1) 年

学校において定める目標		<p>(1) 自己の在り方生き方を考えながら、現代社会の問題を自己の問題として捉え、課題を発見し、「問い」を立て、よりよく課題を解決していくための 資質・能力を育成する。</p> <p>(2) 共働的な活動を通じて、多面的な他者理解と自己の相対化を図り、「対話」の態度を養う。</p> <p>(3) 自己の思いや考えを、相手にわかりやすく発信する力を育てる。</p>
内 容	探 究 課 題	平和探究の実践と探究に必要な基本的スキルの習得
	育成を目指す具体的な資質・能力	<p>(1) 探究に必要なリテラシーや課題の発見や解決に必要な知識及び技能、探究の意義や価値の理解</p> <p>(2) 自分の興味関心に応じて課題を立て、情報収集やその整理、分析を通して、自分の結論を導く力及びそれらをまとめ・表現する力</p> <p>(3) 探究に主体的・協働的に取り組む態度、多面的な他者理解と自己の相対化を通じた「対話」の態度</p>
付与する単位数		1単位
授業時数の配当方法		<p>基本的に1単位を週ごとに割り振り実施する。</p> <p>(但し、平和学習に関して、特定の期間・日時に集中的に行う場合もある。)</p>
学 習 活 動		<p>「平和」を軸とした探究学習を行うために各教科の特性に応じて以下の学習活動を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国語科：入学前課題の書評と関連して図書室の使い方・小論文の書き方を学ぶ。その際平和に関する教材、文学作品等を積極的に用いる。 ・数学科：統計量の出し方、統計量の適切な使い方、分析の仕方を学ぶ。日本が戦争をしていた時代と現代の比較・分析したり、現在戦争をしている国と日本の違い（幸福度や月収など）や住みたい国ランキング上位と豊かさの関係等を考えることで「平和」を多角的に見る。 ・地歴公民科：平和資料館について「分析的空間」と「共感的空間」の2つの観点から歴史をみる。

	<ul style="list-style-type: none"> ・理科：「正しい研究」をすることで、あらゆる面で「平和」に寄与することができる。一方で、意図的であっても意図的でなくても「正しくない研究」をすることで、「平和」を壊すことにつながるということを、研究倫理のガイダンスを通して共有していく。 0、各科目からのガイダンス 1、なぜ、研究？（研究とは？） 2、なぜ、研究倫理？ 3、ケーススタディ検討 4、研究の基本精神 5、研究と日々の理科授業とのつながり <ul style="list-style-type: none"> ・外国語：英語による①必要な情報を取り出してまとめる力と②それを英語で表現して発信する力の基礎を国連スピーチ、プレゼンテーション、世界の偉人関連の平和文書等を用いながら教授する。簡潔な英語で実際に書いたり話したりする時間とする。 <ul style="list-style-type: none"> ・保健体育：社会課題について情報を収集し、発信する力を育成する。オリンピックやSDGsなど健康やスポーツと大きくかかわる社会課題についての題材を主に扱う。 <ul style="list-style-type: none"> ・芸術：知覚感受したことを自らの感情や思考として、他者に伝える能力や、物事に最後まで粘り強く取り組む姿勢を育成する。パフォーマンス鑑賞を行い、考察・要約する活動を行う。 <ul style="list-style-type: none"> ・家庭科：礼儀作法について等、ソーシャルスキルを身につけるための時間とする
<p>教材の使用 等</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 『課題研究メソッド 2nd Edition よりよい探究活動のために（岡本 尚也 著）』 2. 『ひろしま平和ノート——ヒロシマ発 持続可能な社会の実現（広島市教育委員会編）』 3. 『証—被爆 70 周年慰霊の記（舟入・市女同窓会編）』 4. 『何のために「学ぶ」のか（桐光学園・ちくまプリマー新書編集部 編）』 5. 舟入高校のオリジナル教材
<p>指導方法・指導体制</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・イノベーションデザイン部が策定した指導計画に基づき、各教科・科目と連携をとりつつ、指導にあたる。 ・1学年会で情報を共有しつつ、月ごとに担当教科を変えて、全教職員で指導にあたる。
<p>評価規準・評価方法</p>	<ol style="list-style-type: none"> (1)探究に必要なリテラシーや課題の発見や解決に必要な知識及び技能、探究の意義や価値の理解を身につけることができている。 (2)自分の興味関心に応じて課題を立て、情報 収集やその整理、分析を通して、自分の結論を導く力及びそれらをまとめ・表現する力を 身につけることができている。 (3) 探究に主体的・協働的に取り組む態度、多面的な他者理解と自己の相対化を通した「対 話」の態度を身につけることができている。 <p>方法：読書体験や社会の諸問題についての原稿・レポートの作成、成果物の読み合いと評価及び分析、レポート等をもとにした発表</p>

※探究の過程については、各3つのラウンドにおいて、探究における4つのフェーズを1回転させるものとする。

単元	月	探究の過程	学習内容・学習活動	時数	学習形態 (場所)	各教科・特別活動等との関連・ 指導上の留意点等
読書体験の充実	4月	探究の方法の習得	●入学前課題：新書による問い立て →「何のために「学ぶ」のか」を読み、要約と舟入高校で「何のために学ぶのか」という問いに答える形で文章を書く。	1	学年単位	・自己の興味・関心と社会の諸問題とを結びつけ、「問い」を出す練習を行うとともに、舟入高校で求められる探究力を知る機会とする。 ・イノベーションデザイン部が担当する。舟入高校における3年間の探究学習の流れを知るとともに、探究に必要な力や姿勢を知る機会とする。また、どのような社会貢献が自分のできるかを考察するとともに、大学進学等の将来の専門的な学びと関連させて考える糸口とする。
			●ガイダンス（講堂で行う）	2	HR 単位	・国語科の教員が担当する。舟入高校の探究学習の流れ、図書館の利用方法と読書の意義、外部へ出ていくことの重要性を伝える。また高等学校で必要な文書能力の育成に努める。
	5月	平和探究ラウンド	●「問い立て」の導入と舟入高校の「平和」の歴史	3	学年単位	・舟入高校の歴史と関連付けながら「平和」の歴史を学ぶとともに「平和」な未来を構築するために必要なことを考える。
	●平和の伝承（講堂で行う）		1	学年単位	・被爆体験を聞き、被爆の実相と被爆者の願いについて理解を深める。 ・平和記念資料館見学、碑巡り、市女慰霊碑献花を通じて、被爆の実相や核兵器廃絶に向けた国際社会の取り組みを理解し、平和な社会の実現に向けて自分たちのできることを考える。	
			●碑巡り学習（HR 教室）	3	HR 単位	（内容） ①「平和資料館は分析的空間であるべきか、共感的空間で

	6月		●SDGs及びオリンピックを題材とした平和探究	2	学年単位	あるべきか」という視点で平和資料館を見学する。 ②「平和資料館はどの程度実物展示主義であるべきか」をMQとするジグソー法学習を行う。歴史分析と記憶の継承という文脈においてフィクションの功罪について検討、判断する。
	7月		●平和ラウンドまとめ	1	学年単位	・保健体育科が担当する。探究学習の形式で、平和を考えることで、探究の流れを把握すると共に、探究を行っていくうえで必要なことを生徒各々で再認識する。
	8月		●夏の課題			・平和ラウンドの振り返りを全体で行う。
世界を知り考える	9月	学問ラウンド	【人文科学ラウンド】 ●芸術の世界における「平和」	2	学年単位	・芸術科が担当し、芸術の分野での「平和」探究学習を行う。
	10月		●ソーシャルスキルの習得	1	学年単位	・家庭科が担当し、夏休み以降、校外で探究学習を行うために必要な礼儀作法等のソーシャルスキルを身につける。
	11月		●英語でのまとめ・発信	2	HR単位	・英語科が担当し、英語でのレポートおよびプレゼンテーションの作成の仕方を学ぶ。
	12月		【自然科学ラウンド】 ●研究倫理	2	HR単位	・理科教員が担当する。研究倫理の説明を行い、探究を進めていくうえで必要な倫理を学ぶ。
			●統計と情報処理	3	HR単位	・数学科が担当し、探究学習に必要な統計・情報処理の学習を行う。

1 月 2 月 3 月	課 題 の 設 定 ・ ま と め ・ 表 現	<ul style="list-style-type: none"> ● 2年次の課題設定 (各 HR 教室) ● 課題研究共創発表会 (講堂で行う) ● 春休み課題 	3 5	HR 単位 (教室) 学年単位 (講堂)	<ul style="list-style-type: none"> ・ DID と 1 学年担任が担当し、個人の課題設定を「問い立て」 によって行う。 ・ 2 年生エイブルタイムの課題研究発表を学年全員で聞く。 ・ 1 年間の個人の考察の集大成として、「2 年生の研究課題テ ーマ」というタイトルでレポートもしくはプレゼンテーショ ンスライドのいずれかを作成する。使用言語は英語でも日本 語でもよいが、要旨は必ず英語で書く。 ・ 「何のために「学ぶ」のか」を読み、要約と舟入高校で「何 のために学ぶのか」という問いに答える形で文章を書く。
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1 年間の探究学習は「平和」「人文科学」「自然科学」という 3 つのラウンドのもと行われる。ラウンド ごとに探究における 4 つのフェーズを 1 周し、年間で計 3 週の探究を行う。 ・ 情報活用能力については「情報機器の基本的な使い方」「情報の整理の仕方」「情報の発信の仕方」等を 各教科の特性に応じて月ごとに目標を定め、育成することとする。 				